えっ…寝取らせプレイがしたいって…？
あなたにそういう趣味があるのは知っていたけれど
まさかここまで踏み込んでお願いされるなんて…

私の彼氏くんって、本当にどうしようもない変態さんですね…
ふふっ、でも、大丈夫よ
寝取らせプレイ…付き合ってあげるわ

まさか…OKしてくれるなんて…
ふふ、なに？そんなに驚いたの？
うん…こんな情けないお願いを聞いてくれるなんて…

私はね、あなたのこと、全部好きだって言ったじゃない？
あなたの、そんなちょっと歪んでるところも含めて、
ぜ～んぶ大好き！だから安心していいのよ
寝取らせプレイが終わったら、一緒にデート行こうね！

寝取らせの相手は…SNSとかで探す？
ふふ、私が探すわ。私が人間とサキュバスのハーフだってこと、覚えてるよね？
尻尾しか生えてないハーフとはいえ、
匂いでね、この人間が〝オス〟として
優れているかどうか、なんとなくわかるの。
だから、私が匂いで探す方がいいと思うわ。
それにその方がサプライズ感もあって、
あなたももっと興奮するでしょう？ふふっ♪

寝取らせプレイの当日、
彼女が連れてきた男と僕は契約を交わした。
彼女は「マゾカップル奴隷契約を
結んだ方が、あなたはもっと
興奮するでしょう？」と言った。
その通りだ…

彼女が寝取らせをしている間、
僕は貞操具をつけられて過ごすことになる。
そして、寝取らせから帰ってきたあと、
彼女はその報告を僕にしながら、
溜まりきった欲望を
解放させてくれると約束してくれた。
僕はそんな彼女が大好きだ……！

コンニチワ〜

この方ね、私たちが進学する予定の学校の先輩なんだ！

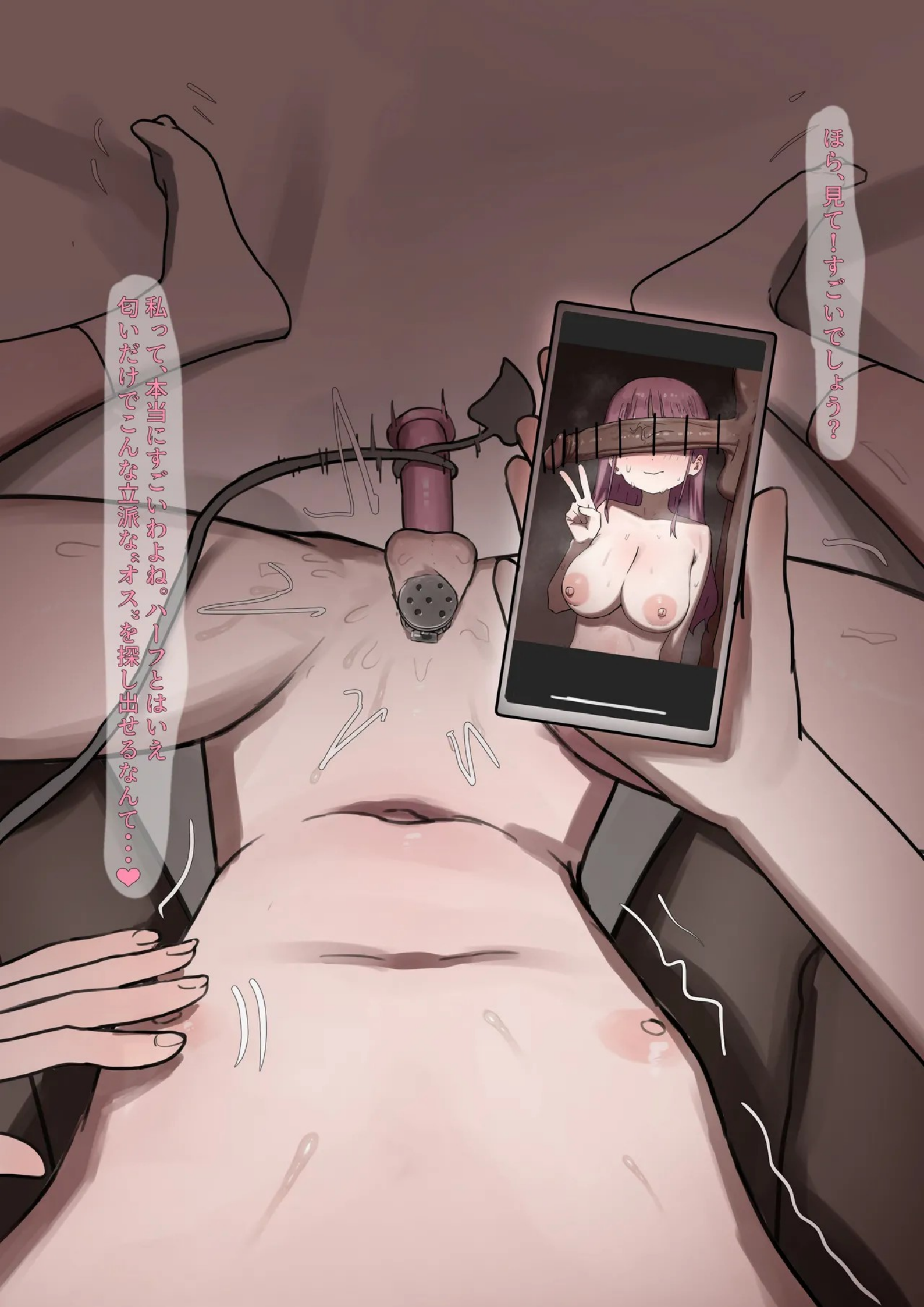
ふふ、じゃあね、今夜は先輩と一晩過ごす予定だから…
明日の朝くらいに帰るね。
そのときにたっぷりイチャイチャしよう！
楽しみにしててね♪

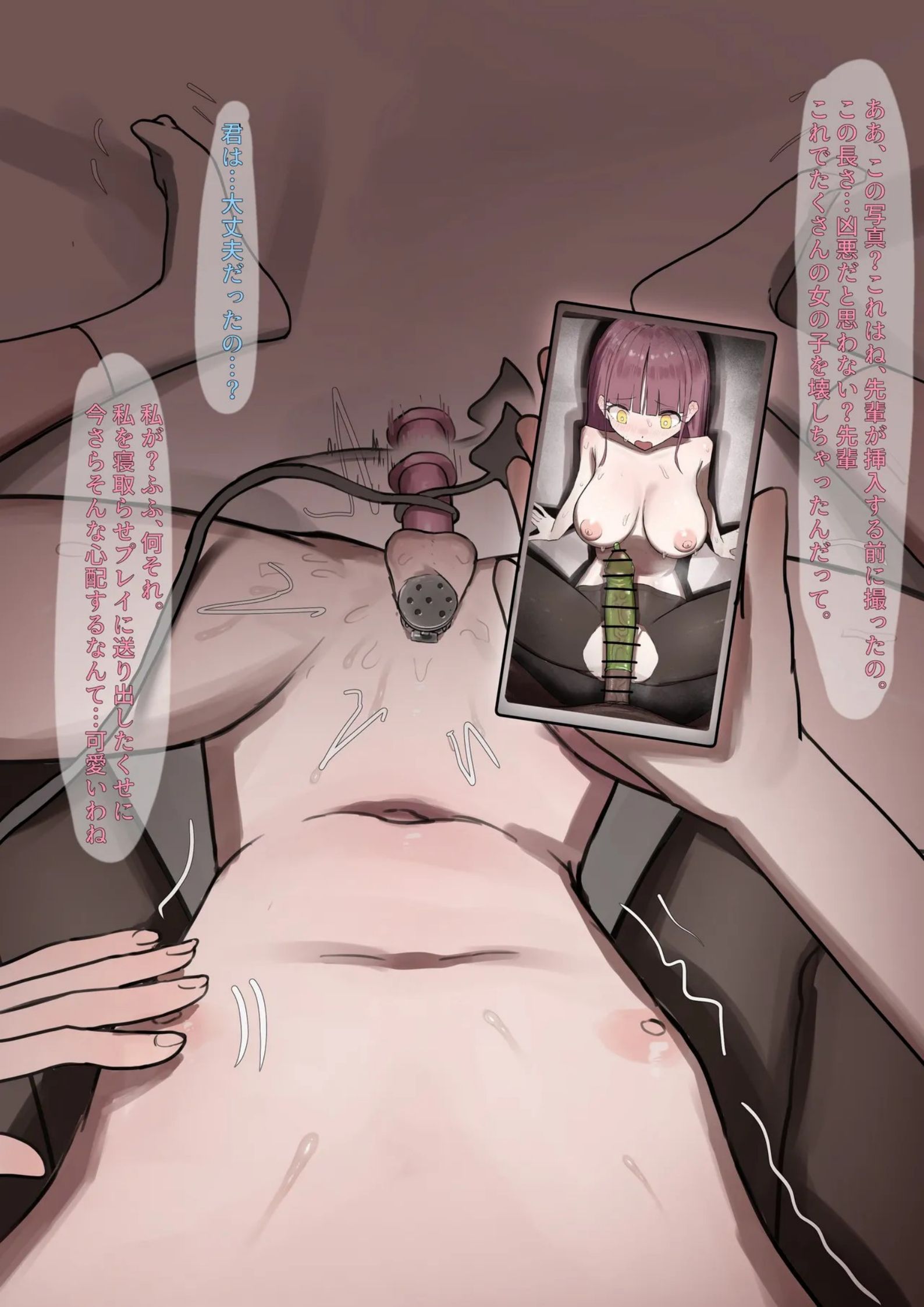
「あら、本当にすごいわね。
こんなにフラットになるなんて…」

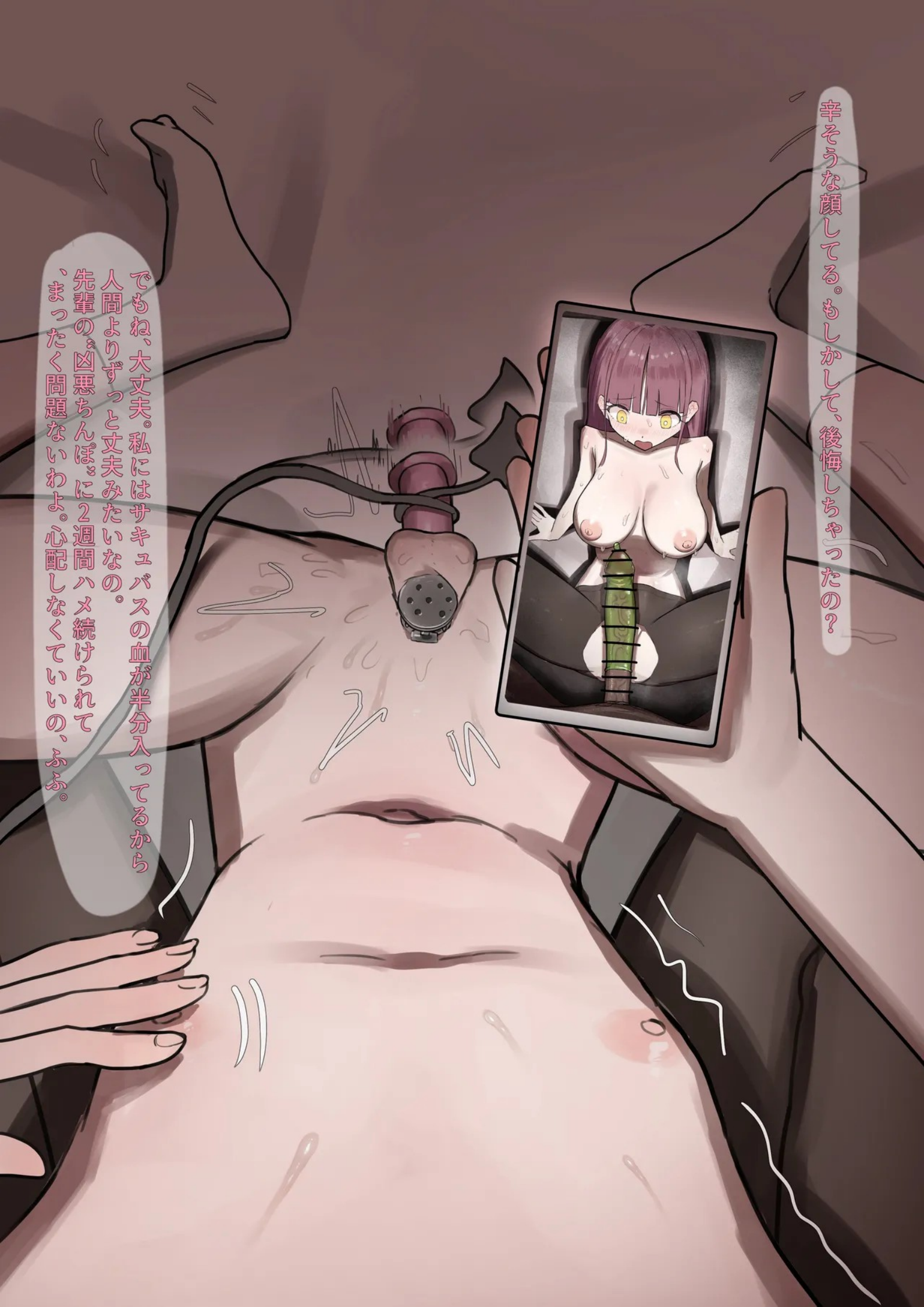
彼女は「明日の朝に帰る」
と言ったけれど
、実際に帰ってきたのは
2週間後だった…
ごめんね、帰るのが遅くなっちゃって。
先輩がね、『こうした方があなたはもっと喜ぶ』って言うから…つい…

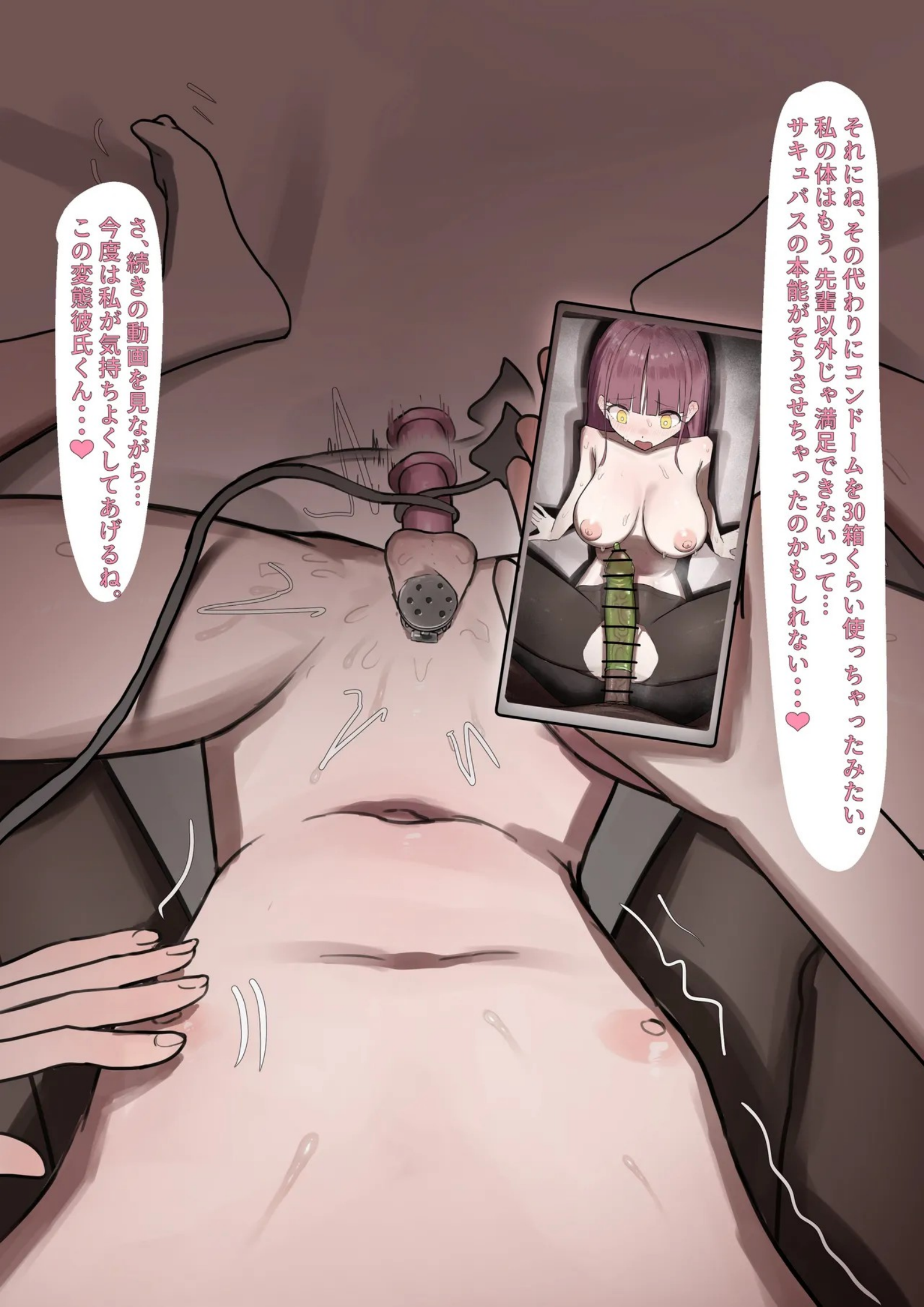
えらい、よく頑張ったね。
この間、辛かったよね。
いいよ、私が楽にしてあげる。
え？貞操具を外してほしいの…？
もう少しだけ我慢してね。外す前に、
どうしてもやってあげたいことがあるのよ。

ふふふ、それはね、君のお尻でメスイキさせてあげること♥
どうしてそんなことをするのか、気になる？
この2週間、先輩にいろいろ教えてもらったの。
強いオスの前で、私はただのマゾメスなんだって…。
だからね、君にも知ってほしいの。
メスとしての快感って、どんなものかを♥
はぁ-
はぁ-♥


ほら、見て！すごいでしょう？
私って、本当にすごいわよね。ハーフとはいえ
匂いだけでこんな立派な〝オス〟を探し出せるなんて・・・❤


ああ、この写真？これはね、先輩が挿入する前に撮ったの。
この長さ…凶悪だと思わない？先輩
これでたくさんの女の子を壊しちゃったんだって。
君は…大丈夫だったの…？
私が？ふふ、何それ。
私を寝取らせプレイに送り出したくせに
今さらそんな心配するなんて…可愛いわね

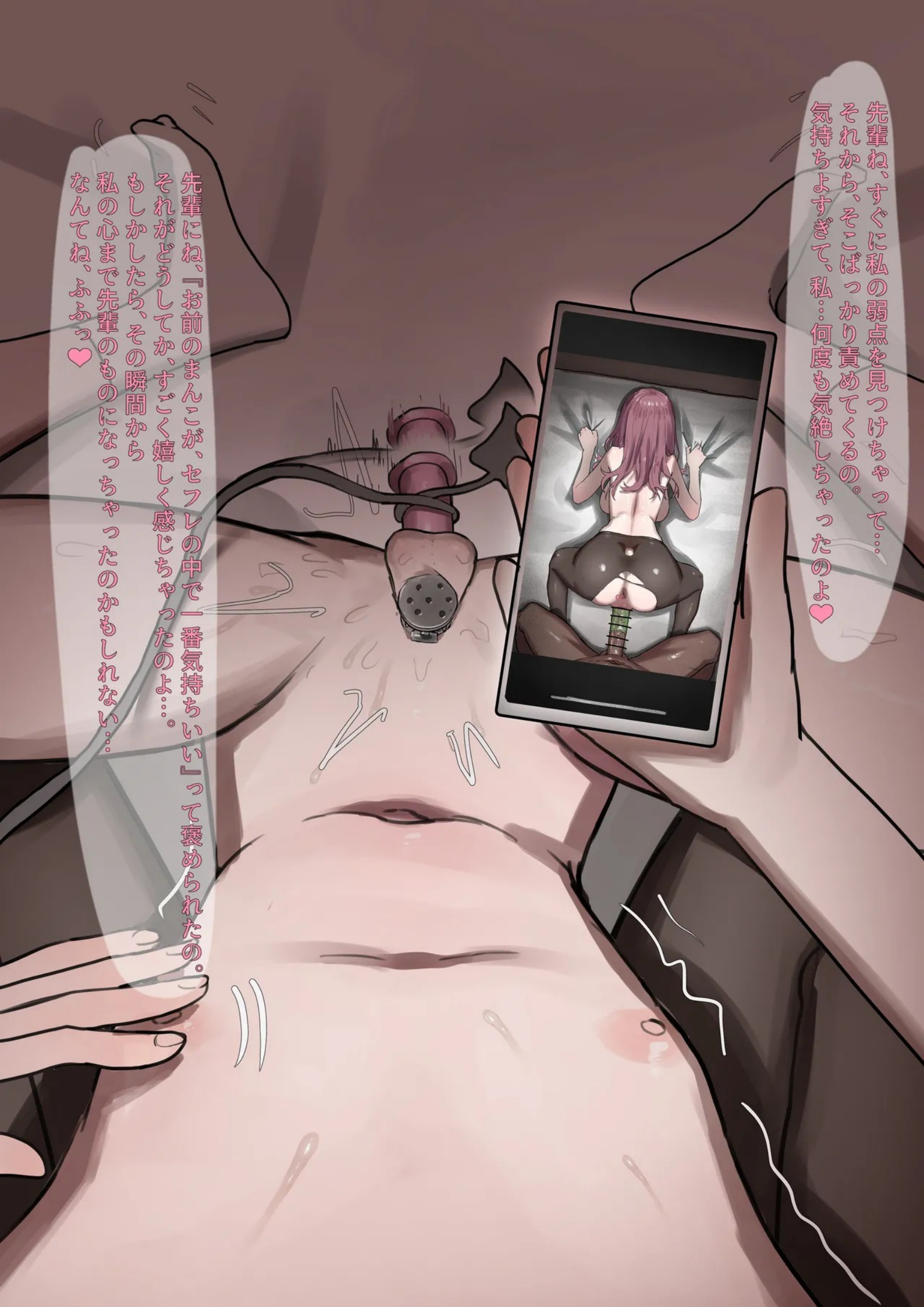

辛そうな顔してる。もしかして、後悔しちゃったの？
でもね、大丈夫。私にはサキュバスの血が半分入ってるから
人間よりずっと丈夫みたいなの。
先輩の〝凶悪ちんぽ〟に2週間ハメ続けられて
、まったく問題ないわよ。心配しなくていいの、ふふ。

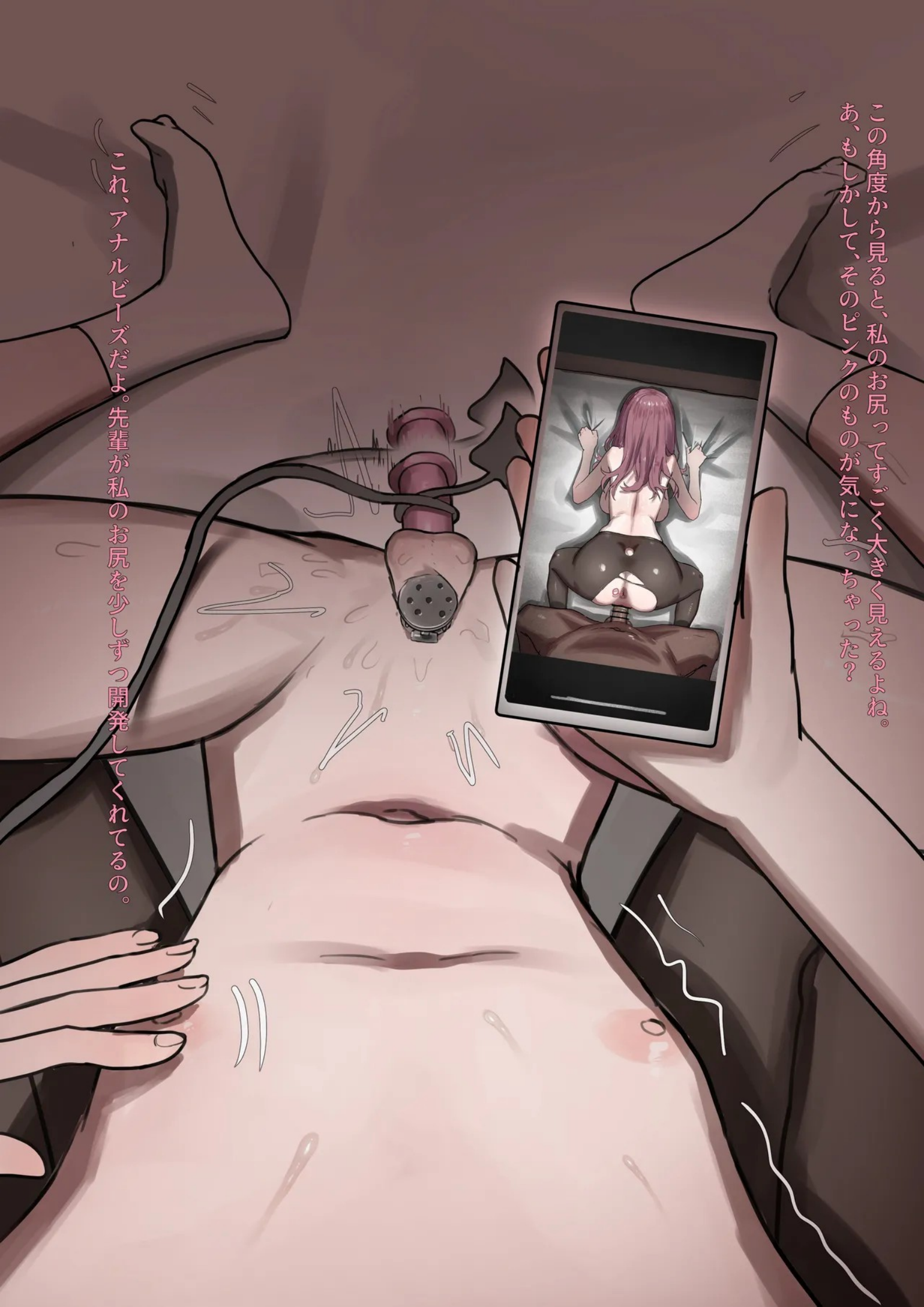

それにね、その代わりにコンドームを30箱くらい使っちゃったみたい。
私の体はもう、先輩以外じゃ満足できないって…
サキュバスの本能がそうさせちゃったのかもしれない…♥
さ、続きの動画を見ながら…
今度は私が気持ちよくしてあげるね。
この変態彼氏くん…♥

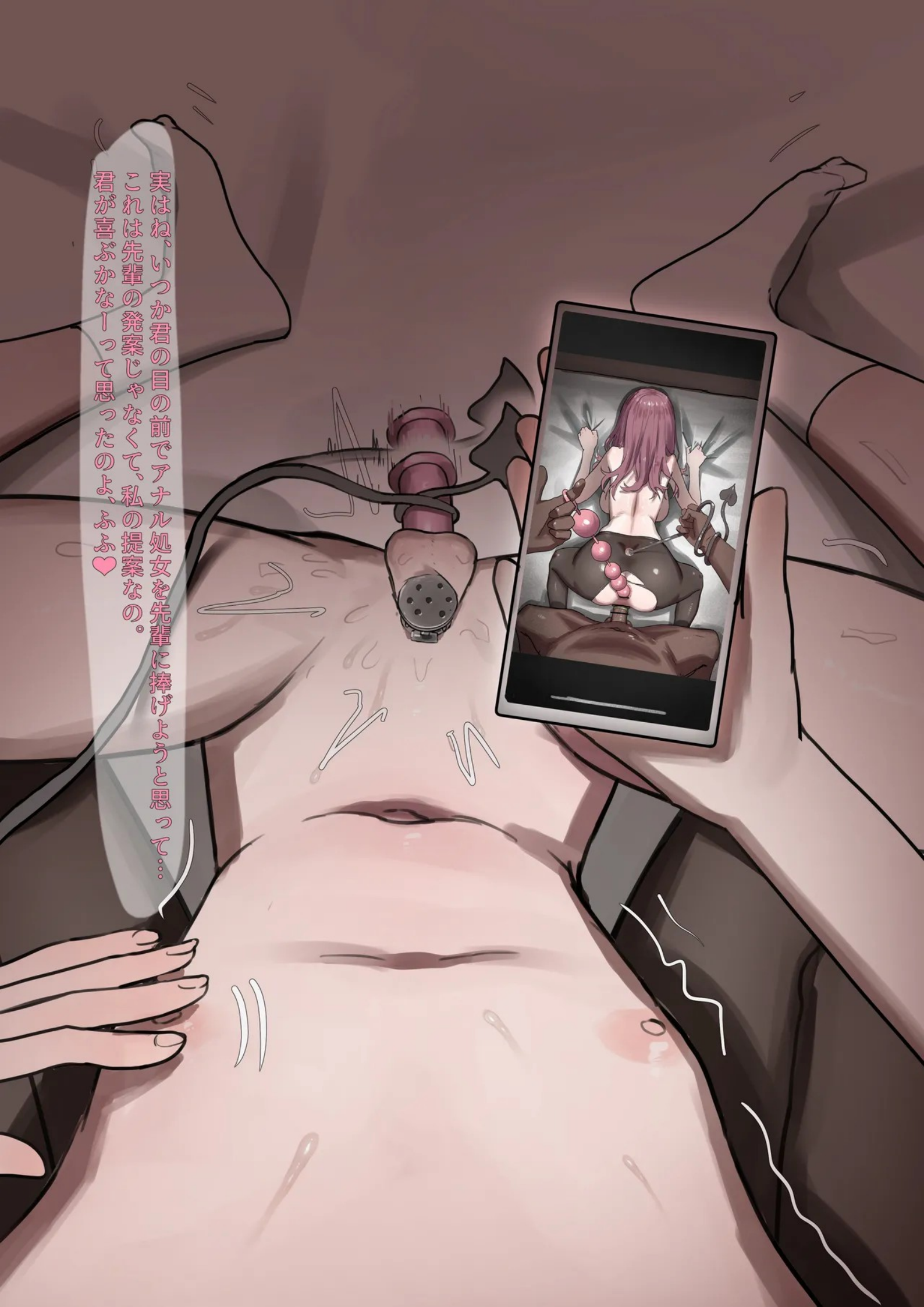
あら…ちんぽ、全部入りきらないみたいね

先輩ね、すぐに私の弱点を見つけちゃって…
それから、そこばっかり責めてくるの。
気持ちよすぎて、私…何度も気絶しちゃったのよ❤

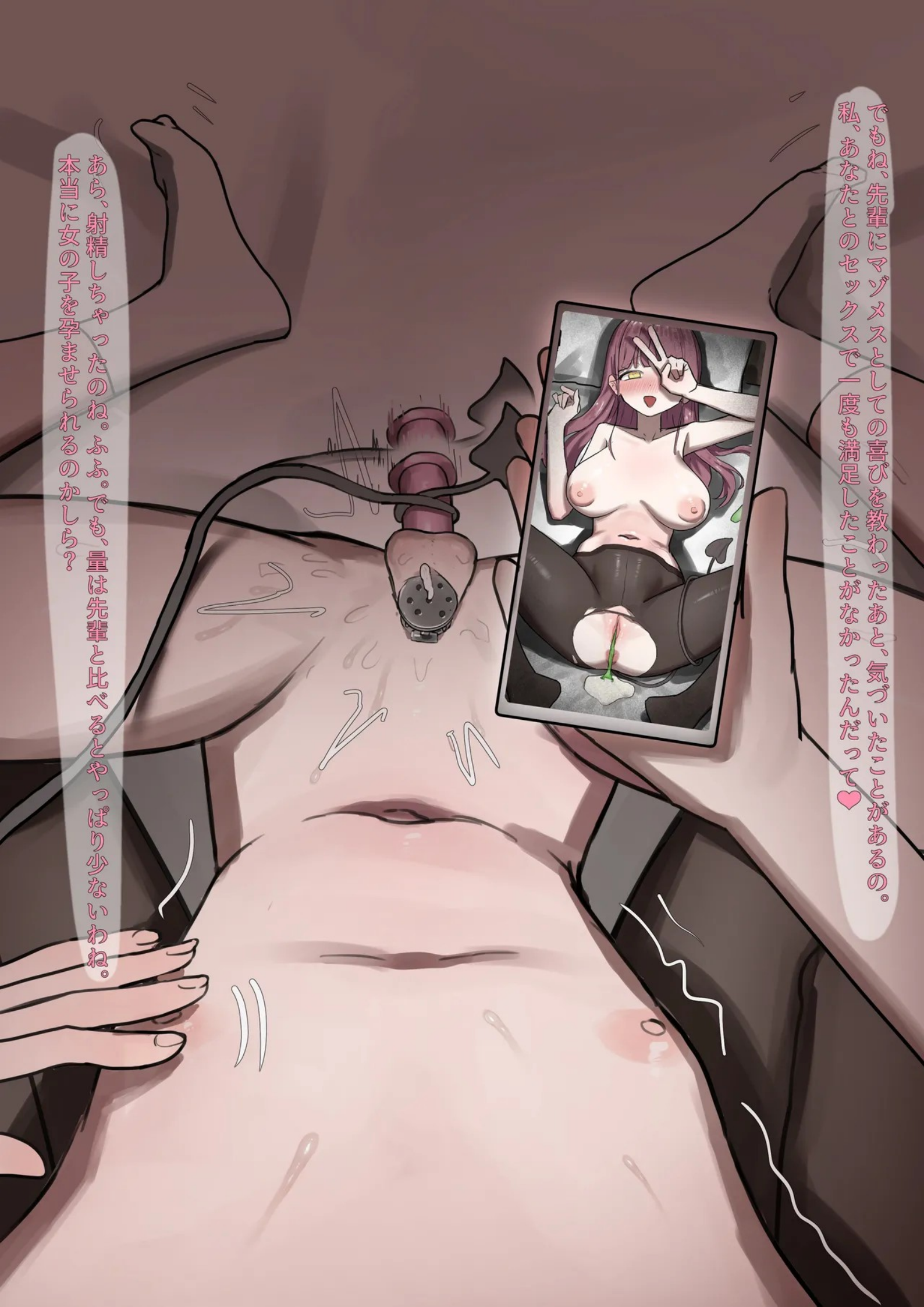
先輩にね、『お前のまんこが、セフレの中で一番気持ちいい』って褒められたの。
それがどうしてか、すごく嬉しく感じちゃったのよ…。
もしかしたら、その瞬間から
私の心まで先輩のものになっちゃったのかもしれない…
なんてね、ふふっ❤


先輩ね、すぐに私の弱点を見つけちゃって…
それから、そこばっかり責めてくるの。
気持ちよすぎて、私…何度も気絶しちゃったのよ♥
先輩にね、『お前のまんこが、セフレの中で一番気持ちいい』って褒められたの。
それがどうしてか、すごく嬉しく感じちゃったのよ…。
もしかしたら、その瞬間から
私の心まで先輩のものになっちゃったのかもしれない…
なんてね、ふふっ♥


この角度から見ると、私のお尻ってすごく大きく見えるよね。
あ、もしかして、そのピンクのものが気になっちゃった？
これ、アナルビーズだよ。先輩が私のお尻を少しずつ開発してくれてるの。


実はね、いつか君の目の前でアナル処女を先輩に捧げようと思って…
これは先輩の発案じゃなくて、私の提案なの。
君が喜ぶかなーって思ったのよ、ふふ♥

「この写真はね、初日の最後に撮ったものなの。
見て、ベッドの上に使い済みのコンドームがたくさん散らばってるでしょ？
さすが先輩よ、立派なオスだわ。あなたとは全然違う。
だって、あなたなら一回でもう限界だし、
ちんぽも細くて短いんだもの。
オスとして、あなたは最弱よ。


でもね、先輩にマゾメスとしての喜びを教わったあと、気づいたことがあるの。
私、あなたとのセックスで一度も満足したことがなかったんだって♥
あら、射精しちゃったのね。ふふ。でも、量は先輩と比べるとやっぱり少ないわね。
本当に女の子を孕ませられるのかしら？

どうだった？お尻は気持ちよかった？
…うん…想像以上だった…。
そうでしょ？よかったね！
私も先輩とのセックスでこんな快感をいっぱい味わったの。
だから、あなたも同じくらいの快感を得られて…私、すごく嬉しいわ！